

第8回 本庁舎跡地の活用に係る勉強会

開催日時：令和4年6月29日（水）午後7時～
会場：グリーンパレス 2階 千歳・芙蓉

目次

1 . 前回（第7回）の振り返り	2
2 . 災害に係る中央地区の現状	3
3 . 過去の災害における避難所の課題と対策	13
4 . 意見交換	15
5 . 今後のスケジュール	17



江戸川区で想定される被害や避難の流れ、過去の災害における避難所の課題について学んだうえで、施設に求める機能について意見交換します

1

前回（第7回）の振り返り

➤ 前回の内容・いただいたご意見を振り返ります

2

江戸川区の被害想定・被災後の行動

➤ 想定される被害や、被災時の避難の流れ等を学びます

3

過去の災害における避難所の課題

➤ 避難所の課題と、その対応事例を学びます

4

意見交換

➤ 中央地区の公共施設に求める機能について議論します



第7回 令和4年2月

書面開催にて、本庁舎周辺地域の特徴、特色を取り上げました



内容

(1) 人口

- 中央地区の人口は、2100年までに約5万人減少し、4人に1人以上が高齢者になると推定されている

(2) 施設

- 本庁舎周辺には区を代表する大きな施設が複数あり、中央地区以外からも利用者が訪れる
- 主に地区住民が利用するコミュニティ施設もある

(3) 交通

- 区役所には多くの路線が乗り入れ、区内各地と人の往来がある

(4) 産業

- 中央地区は葛西地区に次いで事業所数・従業者数が多く、その多くは本庁舎周辺に集中している

(5) 商業

- 商店会加盟店舗数が近年10年で3割程度減少している

いただいたご意見

(1) 人口

- 人口が減ると行政の予算も減るため、「江戸川区に住みたい」と思えるようなまちづくりをしてほしい

(2) 施設

- 施設と自然が一体となった良い景観がある
- 本庁舎等が移転しても困らないようにしてほしい。
- 公共施設が1か所にまとまっていると人が集まりやすくなると思う。

(3) 交通

- バスは様々な路線があり便利だが、区内循環バス（コミュニティバス）があると、より便利になると思う。

(4) その他

- 5年後6年後よりも20年後30年後の未来を思案してほしい



2. 災害に係る中央地区の現状

令和4年6月29日 資料

荒川・江戸川の洪水や高潮などの大規模水害が発生した場合、本庁舎周辺は最大で3～5m（建物2階程度）の浸水が想定されます

江戸川区役所の浸水イメージ





2. 災害に係る中央地区の現状

令和4年6月29日 資料

中央地区は、**浸水対策重点地区**に選定されており、**河川の決壊だけではなく、下水道の能力を超えた雨水の流入による内水氾濫の対策も必要です**

内水氾濫による浸水対策

内水氾濫と下水道

豪雨



- 下水道管を通して、雨水は河川や海に流出します
- 都市化が進んだ東京では、**雨水が地中にしみこみにくく、雨水の大部分が下水管に流入します**

内水氾濫の発生



- **下水道の排水能力を超過**すると、**マンホールや側溝から水があふれる「内水氾濫」**が発生します
- 平成28年8月2日には、集中豪雨による内水氾濫で、**中央地区の50世帯が床下浸水または床上浸水**の被害に遭いました

国・都・区の対策



下水道幹線の整備



ハザードマップの公表



住宅の浸水予防策検討支援

住民・事業者の対策



住宅や事業所の浸水対策実施



適切な避難



2. 災害に係る中央地区の現状

令和4年6月29日 資料

浸水前に区外への避難することが望ましく、区外へ避難する時間的余裕がない場合は、地域防災拠点や頑丈かつ高い建物へ避難します

大規模水害が予測される時の避難の流れ

氾濫72時間前
共同検討開始

- いつでも避難できるように準備を始める

氾濫48時間前
自主的広域避難情報

- 江東5区外への自主的な避難が呼びかけられます
- 徒歩、電車、自動車で区外の安全な場所に避難してください



氾濫24時間前
広域避難指示

- 大規模水害の危機が迫っています
- ただちに区外に避難してください
- 要配慮者の方以外は自動車での避難は禁止です



氾濫9時間前
域内垂直避難(緊急)

- 広域避難をする時間的余裕がない場合、区内で避難します
- 地域防災拠点や小中学校、近くの頑丈かつ高い建物に避難します
 - ✓ 地域防災拠点は「大島小松川公園」「葛西南部地区」「国府台台地」です

氾濫発生
区内にとどまった場合

- 水が引くまで2週間以上を要する場所もあります
- 頑丈かつ高い建物に避難した場合であっても、水道、電気、ガス、トイレが使えない状況で、水が引くまで生活しなければなりません
- 浸水域内にとどまる人口が多いため、救助できません



2. 災害に係る中央地区の現状

令和4年6月29日 資料

東日本大震災では、江戸川区の最大震度は5強であり、区内各地で液状化現象や建物への亀裂などがみられました





2. 災害に係る中央地区の現状

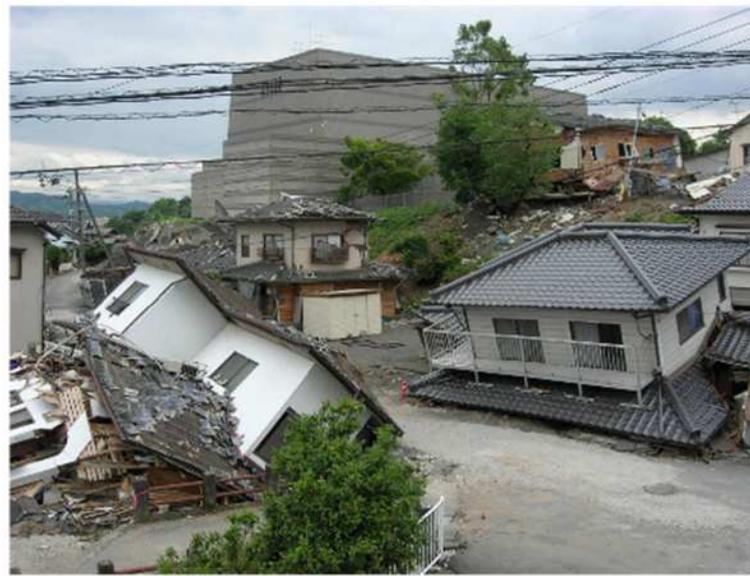
令和4年6月29日 資料

過去に各地で発生した地震では、火災や建物の倒壊などもみられました

阪神淡路大震災（平成7年） 出所：神戸市



熊本地震（平成28年） 出所：熊本災害デジタルアーカイブ

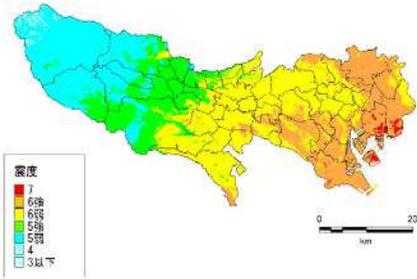




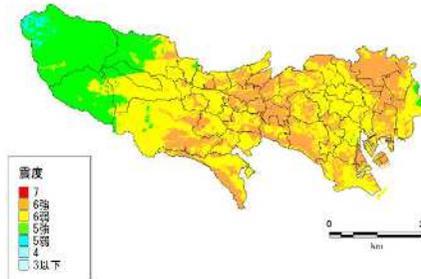
2. 災害に係る中央地区の現状

令和4年6月29日 資料

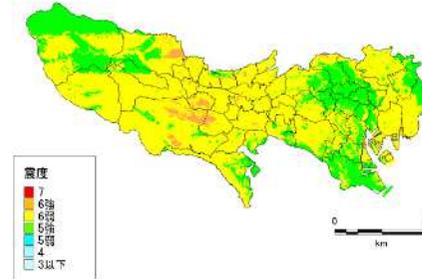
「首都直下地震等による東京の被害想定」では8つのパターンの地震が想定されています



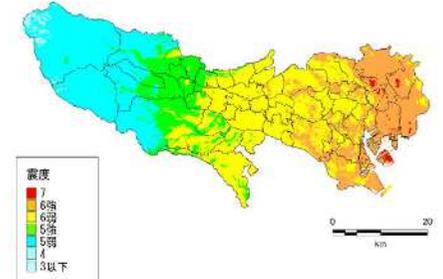
都心南部直下地震 (M7.3)



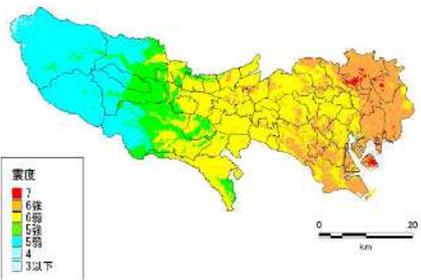
多摩東部直下地震 (M7.3)



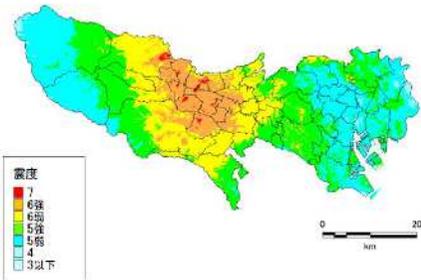
多摩西部直下地震 (M7.3)



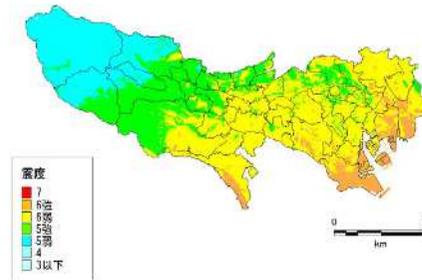
都心東部直下地震 (M7.3)



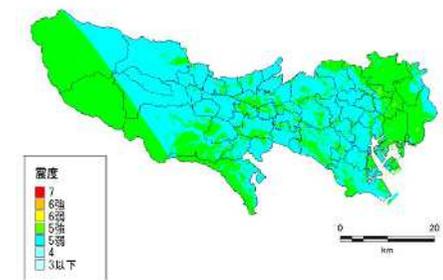
都心西部直下地震 (M7.3)



立川断層帯地震 (M7.4)



大正関東地震 (M8)



南海トラフ巨大地震 (M9)



2. 災害に係る中央地区の現状

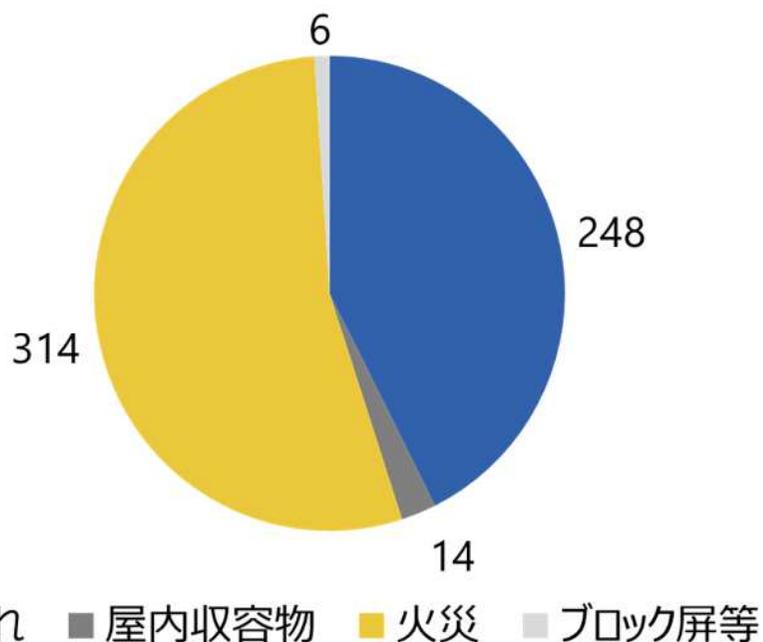
令和4年6月29日 資料

都心南部直下地震（首都直下地震）では、震度6強、建物被害や火災による死者582人、負傷6,713人、避難人口約28万人が想定されます

首都直下地震における人的被害

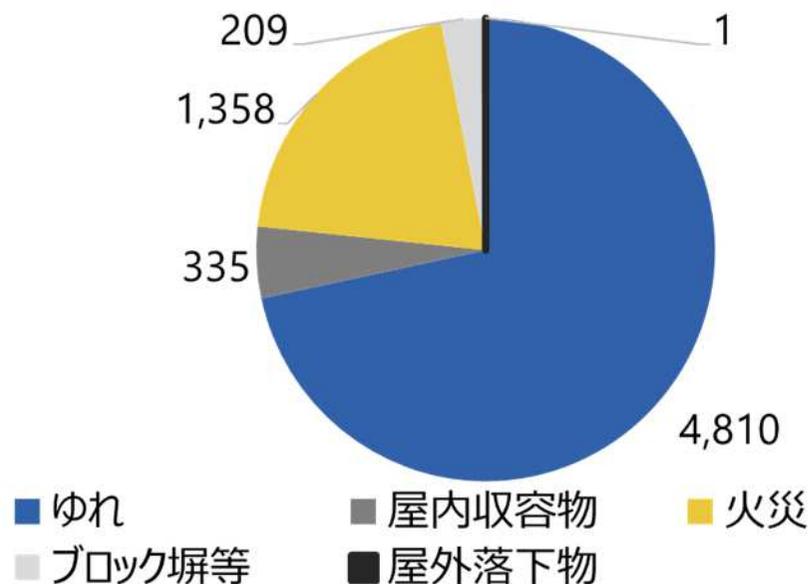
想定死者数

死因の9割以上が「ゆれ」または「火災」
区民の約1,200人に1人が命を落とす



想定負傷者数

負傷者の約8割は「ゆれ」によるもの
区民の約100人に1人が負傷する



注：冬の夕方、風速8m/sの条件下で、都心南部直下地震（マグニチュード7.3）が発生した場合を想定

出所：東京都防災ホームページ「首都直下地震等による東京の被害想定（令和4年5月25日公表）」

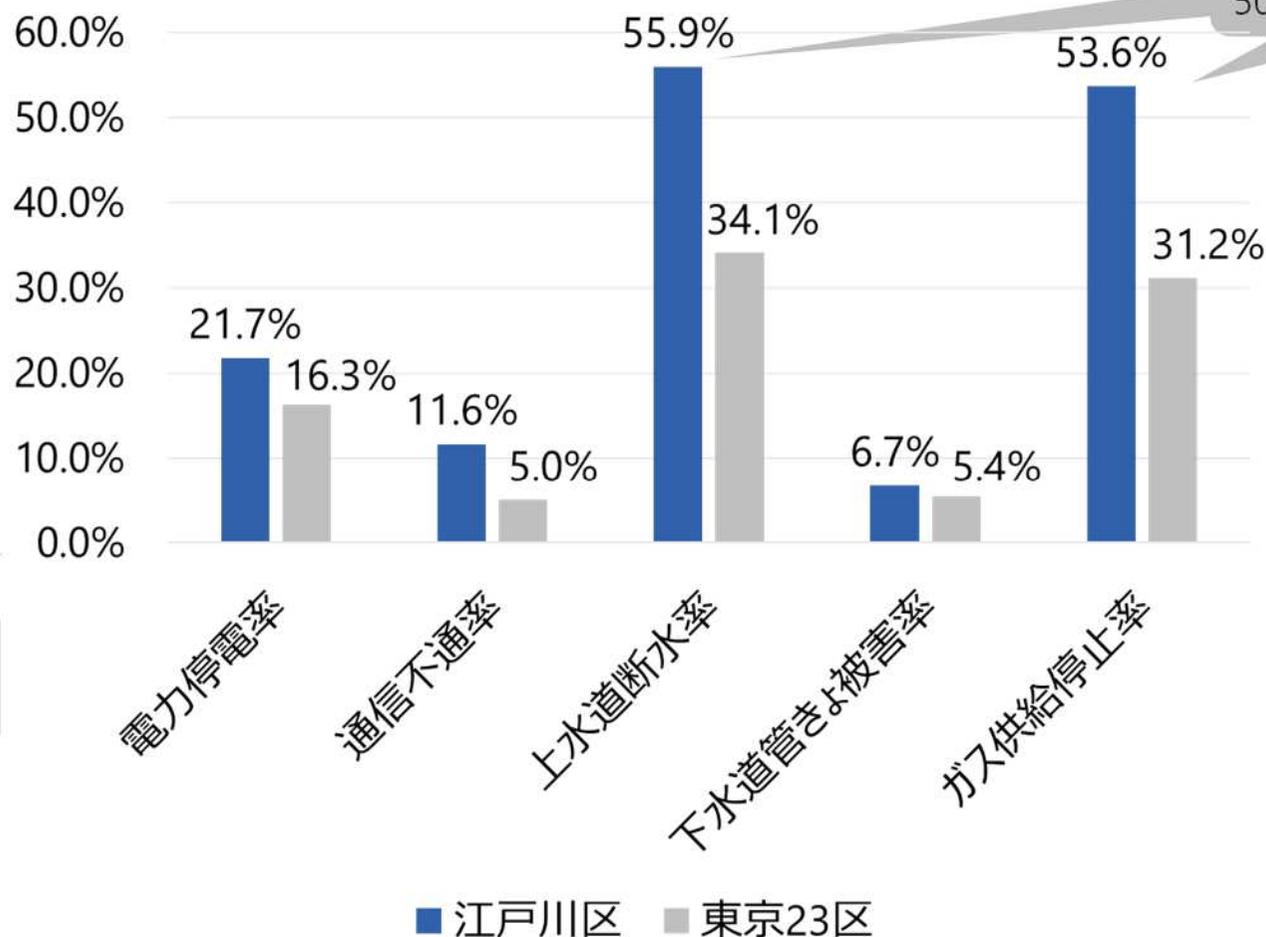


2. 災害に係る中央地区の現状

令和4年6月29日 資料

ライフラインが不通となる割合が、東京23区平均と比べ高いと想定されています
特に、上水道・ガスが不通となる割合は50%を超えています

首都直下地震におけるライフラインの被害



上水道断水率・ガス供給停止率が特に高く、50%を超えている

全ての項目で、特別区全体と比べ不通率が高い

注：冬の夕方、風速8m/sの条件下で、都心南部直下地震（マグニチュード7.3）が発生した場合を想定
出所：東京都防災ホームページ「首都直下地震等による東京の被害想定（令和4年5月25日公表）」



2. 災害に係る中央地区の現状

令和4年6月29日 資料

中央地区の施設には、災害対策本部やボランティアの活動拠点など、地震発生時に全区的な機能をもつことが想定されています

地震発生時の中央地区施設活用

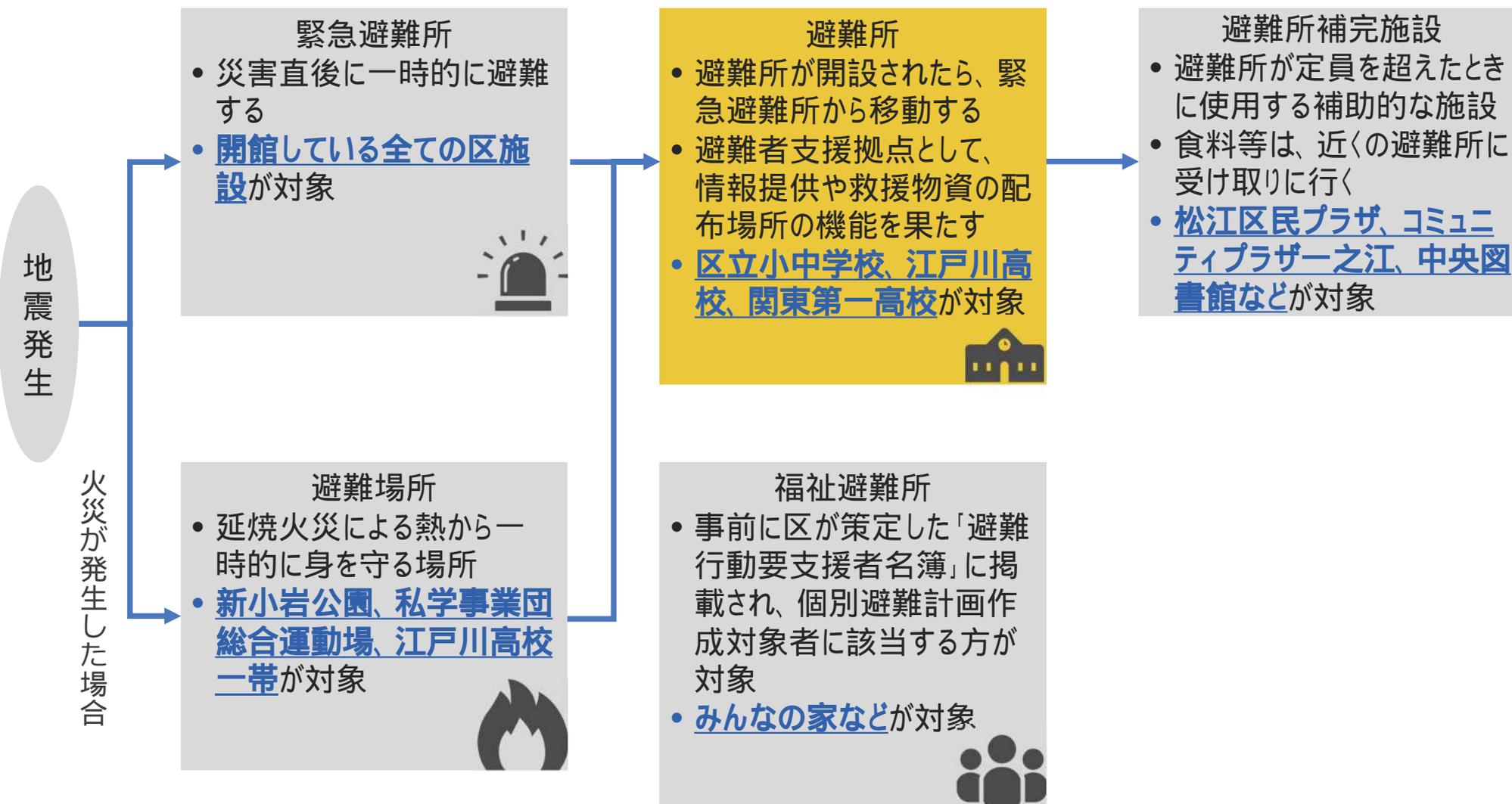
災害時活用計画	施設名称	主な活用内容
災害対策本部・各部本部	区役所本庁舎・第二庁舎・第三庁舎	災害対策の本部 (都や関係機関との連絡調整、各種団体への協力要請、災害情報の集約・管理、他自治体及び専門機関の受援対応)
本部代替施設	総合文化センター・中央図書館	本庁舎機能不全時の災害対策本部の設置施設
地域拠点	区役所1F(区民課)	地区の本部ブランチ (情報発信・集約、本部との調整・罹災証明の発行、相談窓口)
地域内輸送拠点・食品等集積地	総合文化センター	都からの支援物資の受取拠点、救援物資の集積・仕分(全国からの救援物資受領の窓口機能を有する)
医療救護活動拠点(健康部本部)	江戸川保健所	医療活動、医療支援の調整及び指示拠点
医療救護受援施設	中央健康サポートセンター	医療情報の集約、応援医師等の活動拠点
ボランティア活動支援拠点	グリーンパレス・東小松川公園	江戸川区災害ボランティアセンター開設 (都ボランティアセンターとの調整、ボランティア受け入れ)
遺体収容所	総合体育館	遺体の検案・安置、火葬許可証等の発行

出所：江戸川区地域防災計画



避難所の中心となるのは小中学校であり、その他の公共施設は災害発生直後の緊急的な役割や、定員超過時の補完的な役割を果たします

地震時の避難ルールと避難所





江戸川区の主な避難所は学校となりますが、過去に起きた各地の災害ではトイレ、住環境、電気、学校再開などが学校避難所の主な課題となりました

災害時の学校避難所の課題

分類	課題
トイレ・水 	<ul style="list-style-type: none"> 洋式トイレの不足や手すりがないこと、<u>トイレが屋外であること</u>などが理由で、トイレの回数を減らそうと<u>水分摂取を控えて体調を悪化させる</u>ケースが見られた トイレが不足し、公園や校庭に穴を掘って代用を図ることもあった 断水のため、<u>沢やプールから水の汲みだし</u>を行った
住環境 	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーや室温の快適性を求めて<u>車内に避難した結果、エコノミークラス症候群で死亡する</u>ケースがあった <u>インフルエンザやノロウイルス等が流行</u>し、感染者専用スペースが必要となった 夜間にトイレに行く場合などで、<u>懐中電灯や足音によって他の避難者の睡眠が阻害</u>された 毛布が不足していたため、新聞紙、段ボール、カーテン、体操用マット、座布団、柔道場の畳、断熱シート等を活用して暖を取った 夏に体育館に避難する場合、日差しの影響等もあり、<u>扇風機を持ち込んでも蒸し風呂状態</u>となった
電気 	<ul style="list-style-type: none"> 広範囲で停電が発生し、<u>自家発電設備の必要性を求める声</u>が多かった 電気容量や体育館等の<u>コンセントが不足</u>した
学校再開 	<ul style="list-style-type: none"> 避難が長期化したことで、学校再開に支障をきたした <u>教職員が避難所対応で多忙</u>となり、学校再開の準備等に支障をきたした 避難により、<u>学校施設や備品の破損・紛失</u>があった

出所：住環境価値向上事業協同組合「大震災に備える工務店のための知恵袋（その3）」、文部科学省「災害に強い学校施設の在り方について～津波対策及び避難所としての防災機能の強化～」、熊本県教育委員会「避難所となった学校における施設面の課題について」



江戸川区では、学校の改築にあたり、災害時に地域住民が逃げ込むのに必要な機能の整備を進めています

松江小学校における災害対策

避難所を2階に設置・屋外階段の設置



2階への
屋外階段

停電や断水に備えた設備



太陽光発電



屋上プールの水
をトイレで利用

- 避難所となる屋内運動場及び備蓄倉庫を、浸水のおそれの少ない2階に設置しています
- 地域住民が2階に迅速に避難できるよう、屋外階段を設置しています

- 停電に備え、太陽光発電設備を備えています
- 屋上プールの水は、トイレやマンホールトイレで利用可能です
- 受水槽はバルブを閉め、濁り水が混入しないようにすることで、最大で10トンの飲料水を確保可能です

出所：文部科学省「災害に強い学校施設の在り方について～津波対策及び避難所としての防災機能の強化～」、江戸川区立松江小学校ホームページ



4. 意見交換

令和4年6月29日 資料

本日は、以下の1～3のテーマで意見交換した後に、その内容を踏まえ、中央地区の公共施設に求める機能について議論していただきます

1

中央地区で地震/水害に遭った場合、どこに避難するべきかご存じでしたか？

2

東日本大震災や令和元年東日本台風（台風19号）などで、避難した経験はありますか？

3

中央地区で被災すると想像した場合、どのような不安がありますか？

4

学習した事例、これまでの意見交換を踏まえ、中央地区の公共施設にはどのような機能が欲しいですか？

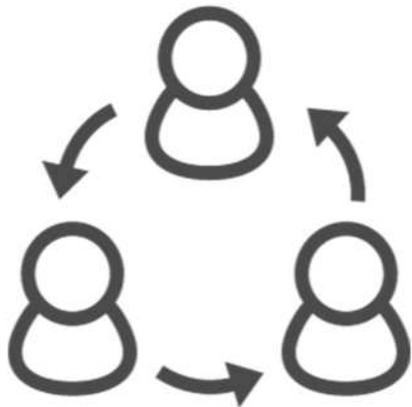


4. 意見交換

令和4年6月29日 資料

意見交換は以下の手順で進めて下さい

手順1



お一人ずつ
テーマに沿ってご発言
(各1分程度)

手順2



お一人ずつの
ご発言を踏まえ会話
(進行役が司会をします)

手順3



最後に
各テーブルでの会話を
発表



5. 今後のスケジュール

令和4年6月29日 資料

- 次回の勉強会は令和4年9月頃を予定しています。
- 詳細については改めてご連絡します。

令和4年度実施予定（全3回）



【スケジュール（案）】

